

平成29年度
ワクワク子育てトークン普及推進に向けた調査研究



子育てにワクワク♪
子育てアイデアがわく
元気がわく！



群馬県生涯学習センター
学習振興係

1 はじめに

家庭教育は全ての教育の出発点であり、子供に基本的な生活習慣、自立心、礼儀、社会のルール等を身に付けさせるとともに、心身の調和のとれた人格の完成を目指すためにも極めて重要である。しかしながら、現代では少子化、核家族化などの家族形態の多様化、地域とのつながりの希薄化などに加え、経済格差による貧困問題等、家庭を取り巻く環境は大きく変化し、子育てに対する不安や問題を抱え、孤立する保護者が増加するなど、家庭の教育力の低下が指摘されている。

こうした中、家庭教育を社会全体で応援していくため、平成28年3月、群馬県議会「家庭教育の支援・子供の未来に関する特別委員会」からの発議により、「ぐんまの家庭教育応援条例」が制定された。この条例の第11条、第12条において、群馬県の施策として「親としての学び・親になるための学びの学習機会を提供するとともに、学校、地域住民等の取組を支援する」とある。

これを受けて、平成28年度に「ワクワク子育てトークン」が作成された。プログラムの内容は、参加者同士が身近なエピソードを通して話し合い、主体的に学ぶ、参加体験型の学習プログラムである。参加者同士の交流を促進するとともに、親子の関わり方や親としての心構えなどの気付きを促すものである。対象は、幼児から中高生の子供をもつ親や将来の親世代（中学生・高校生等）で、研修・講座・懇談会等の学習機会を活用できるものである。

そこで平成29年度は家庭教育をテーマに前述した「ワクワク子育てトークン」普及推進に向けた調査研究を行った。

2 平成29年度の調査研究について

群馬県教育委員会生涯学習課では、平成29年度に「ワクワク子育てトークン」の普及啓発のために、県内全ての市町村の家庭教育担当者を対象に研修会を実施した。研修会の内容は、「ぐんまの家庭教育応援条例」の説明、「ワクワク子育てトークン」の体験等である。群馬県生涯学習センターでは、生涯学習課と各教育事務所と連携を図りながら、家庭教育に対する親の学びを支援するとともに、「ワクワク子育てトークン」の普及啓発活動を行っている。平成29年度は、「出前なんでも講座」を中心に普及啓発活動を行った。「出前なんでも講座」は、県職員が地域や団体に出向き、無料で分かりやすく県の事業や施策などの情報を説明する事業である。「出前なんでも講座」として実施した「ワクワク子育てトークン」の回数は17回である。

プログラムの有効性について、公民館等で実施した家庭教育学級に参加した方からの自由記述のアンケートを基に検証した。また、同アンケートを基に「ワクワク子育てトークン」の効果的な取組例を作成し、ここにまとめた。

3 「ワクワク子育てトークン」による家庭教育支援の概要

(1) 主旨

家庭の教育力の向上を図るため、「ワクワク子育てトークン」を活用し、子育てに無関心な親や不安や悩みをもつ孤立しがちな親など、多様な状況の子育て中の保護者に効果的な取組を開発しその成果を示す。

(2) 概要（ワクワク子育てトークン作成委員会による資料より）

ア 「ワクワク子育てトークン」とは

- このプログラムは、参加者同士が身近なエピソードを通して話し合い、主体的に学ぶ参加体験型の学習プログラムである。
- 参加者は他の参加者とゲーム的な活動やロールプレイング等、様々な手法で交流しながら、自分の子育てを振り返ったり、他人の話を聴いたりすることを通して、親としての心構えや子供への接し方等について新たに気付いたり、改めて家庭教育の大切さを再認識することができる。
- プログラムへの参加をきっかけに、子育てのよき相談相手になるなど、参加者同士のつながりをつくることができる。
- 幼児から中高生の子供をもつ親ばかりでなく、将来の親世代（中学生・高校生等）を対象とした様々な学習機会（研修・講座・懇談会等）でも活用できる。

イ 「ワクワク子育てトークン」の特徴

- ロールプレイング（役割演技）を積極的に活用している。
- エピソードの内容を各自で読んで頭だけで考えること、実際の体験で感じることでは理解の深まりが異なる。家族の中で、自分と異なる役割（例 母親ならば子供や父親）を演じるこ

とにより、より相手の気持ちに気付くことができる。

- ・「ワクワク子育てトーク」では、技術・知識の修得だけを目指すのではなく、家族一人一人の思いに気付き、その後の行動変容につなげることを目的としている。

ウ 基本的なプログラムの流れ

1つのプログラムの実施時間は、50分を想定している。内容をアレンジすることによって、20分から90分まで調整することができる。

	時間	内 容
導 入	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいの説明 ・3つの約束（参加、尊重、守秘）の確認 ・アイスブレイク 簡単なゲームなどで、初対面の緊張をほぐし、気軽に思いや考えが話せる雰囲気を作る。（グループづくりを兼ねることもある。）
展 開	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク エピソード等の資料を基に、グループで楽しく学ぶ。方法は、役割演技（ロールプレイング）や話し合いなど。
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアリング 参加者自身の気付きや他のグループで出された意見を聞き、学習の整理、共有をする。

4 「ワクワク子育てトーク」に関する実施概要

平成29年度に群馬県生涯学習センターが「出前なんでも講座」として実施した「ワクワク子育てトーク」は下表のとおり延べ17回であった。

実施日	団体名 (対象者)	テーマ
6月13日	前橋市総社公民館 (未就学児の保護者)	接し方 「こんなときイライラしませんか」
6月16日	太田市立旭小学校 (第3・4学年の保護者)	人間関係 「子供同士のトラブル」
6月22日	大泉町教育委員会 (未就学児の保護者)	人間関係 「子供同士のトラブル」
8月30日	群馬大学 ※社会教育実習にて (大学4年生)	子育て 「子育て」
9月22日	桐生市PTA連絡協議会 桐生市教育委員会 (幼・小・中・特PTA役員、母親委員、教職員等)	接し方 「子供のほめ方」
9月26日	群馬県立伊勢崎商業高等学校 ※高校生の短期インターンシップにて (高校1年生)	子育て 「子育て」
10月5日 10月24日 10月27日	太田市立南中学校 (中学2年生)	接し方 「子供との関わり」
10月18日	邑楽郡社会教育部会 (社会教育関係職員)	接し方 「子供のほめ方しかり方」
11月2日	前橋市立下川淵小学校 (就学前の保護者)	約束 「社会のマナーやルールは家族から」
11月9日	前橋市立敷島小学校 (就学前の保護者)	約束 「社会のマナーやルールは家族から」
11月12日	長野原町青少年健全育成会	スマホ

	長野原町教育委員会 (青少年健全育成会員、教育委員・ 社会教育委員・公民館運営審議会 委員等)	「子供の『携帯電話』」
11月14日	桐生市立新里中学校 (中学3年生)	接し方 「子供との関わり」
11月16日	群馬県立桐生西高等学校 ※高校生の短期インターンシップに て (高校1年生)	子育て 「子育て」
11月17日	高崎市立高南中学校 (全校生徒、保護者)	親子のコミュニケーション～分かってほし い！中学生の気持ち
11月20日	伊勢崎市立名和小学校 (第3・4学年の保護者)	生活習慣 「家での過ごし方」
11月29日	館林市教育委員会 (小学校家庭教育学級の保護者、公 民館職員等)	接し方 「子供のほめ方」
12月4日	高崎市立群馬南中学校 (保護者、教員、PTA役員)	思春期 「わかりますか、中学生の気持ち」
12月7日	桐生市立北小学校 (PTA役員)	接し方 「こんなときどうしますか」
12月9日	富岡市青少年育成推進員連絡協議会 (小学4・5・6年の子供を持つ保 護者)	接し方 「忙しいお母さん」
12月18日 1月15日	館林市立第三中学校 (中学3年生)	接し方 「子供との関わり」

5 アンケート調査と結果分析

(1) アンケート調査の概要

ア 調査の目的

「ワクワク子育てトーク」のねらいの1つである、「親としての心構えや子供への接し方等についての新たな気付きや家庭教育の大切さを再認識する」が達成できるかをアンケート結果によって明らかにする。また、「ワクワク子育てトーク」の効果的な取組例の作成にも役立つ。

イ 調査方法

プログラム参加者等(335人)に、自由記述によるアンケート調査を依頼した。

(前橋市総社公民館18名、太田市立旭小学校30名、大泉町教育委員会53名、社会教育実習5名、桐生市PTA連絡協議会97名、邑楽郡社会教育部会26名、長野原町青少健全育成会・長野原町教育員会36名、館林市教育委員会47名、高崎市立群馬南中学校23名)

(2) 結果分析の概要

ア 分析の目的

自由記述のアンケートは、コンピュータによるデータ解析の一つであるテキストマイニングで分析した。テキストマイニングとは、文章データを単語や文節で区切り、単語の出現頻度や「どのような単語が近接して出現するか」などを解析して、有用な情報を取り出す分析方法である。自由記述のアンケートをテキストマイニングで処理すれば、代表的な感想や傾向を把握することができる。また、日本語特有の問題でコンピュータの解析だけでは限界があることから、頻出キーワード分析も行った。

イ 分析の方法

コンピュータによるデータ解析はテキストマイニングのソフトウェアである「ユーザーローカルテキストマイニングツール (<http://textmining.userlocal.jp/>)」を用いて分析した。テキストマイニングでは、記述された文章を分解し、分解した記述語一つ一つを変数とみなし、数量データ

と同じように扱っている。すなわち、自由記述のアンケートから得られたテキスト型データをまず分かち書きし、単語に分ける。例えば、「私はアメリカに行きました」という場合、「私（名詞）、は（助詞）、アメリカ（名詞）、に（助詞）、行き（動詞）、まし（助動詞）、た（助動詞）」のようになる。分けられた単語のなかで「言う」や「思う」など、どのような種類の文章にも現れやすいような単語は重みを軽くする処理を行う。その結果を数値化し、値が高い単語を複数選び出し、その値に応じた大ききで表した語彙頻度（ワードクラウド）を図で示した。また、文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだものを図（共起ネットワーク）で示した。出現数が多い単語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画される。

頻出キーワード分析では、自由記述のアンケートを20個のキーワード（「情緒：安心、勇気・自信、意欲・励み、楽しい」「気付き：気付き、知る、参考、広がり、振り返り、同感、共感、共有、違い、相手の立場」「交流：交流、話せる、聞ける、聞いてもらえる、有意義・よさ、機会」）がどのくらい含まれるかを調べた。例えば「初めての方とドキドキしましたが、新しい見方、意見を聞いて、参考になりました。このような機会があり勉強になりました」では、「参考」「聞ける」「機会」の3つが20個のキーワードの中に当てはまる。

(3) 分析結果

ア コンピュータにおけるデータ解析

(ア) 語彙頻度（ワードクラウド）

青が名詞、赤が動詞、緑が形容詞を表している。

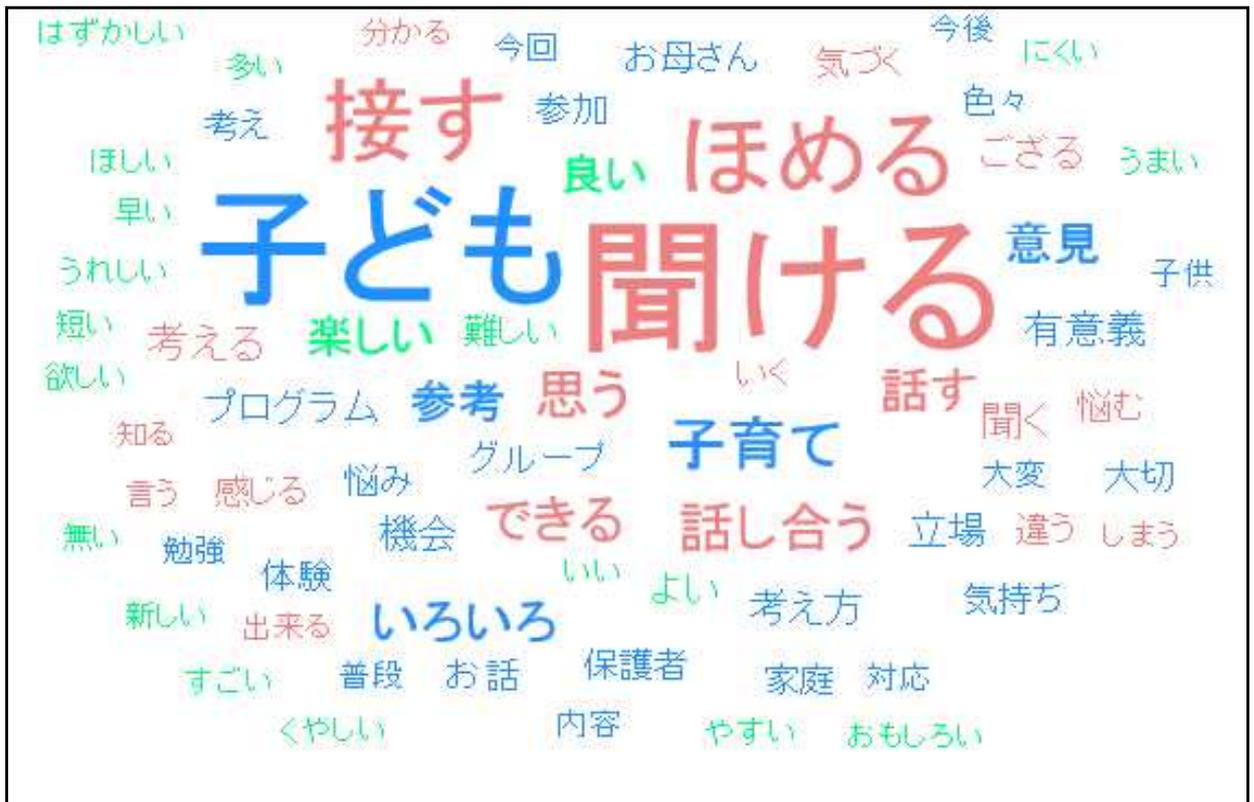


図1 自由記述アンケートからの語彙頻度（ワードクラウド）

図1を見ると、まず、「子ども」「聞ける」が一番大きくなっていることから最頻出の語彙になっていることが分かる。次に、「接す（る）」「ほめる」が上位に現れている。さらに、「楽しい」「参考」「思う」「いろいろ」「できる」「子育て」「話し合う」も上位に現れている。該当する記述の一部を下記に示す。

『普段生活していると忙しくて、あまり考える時間が無いが、こういう機会があると、子どもに対してゆっくり考えられるし、他の方の考えも聞けて良かったです。』

『参加型と聞いて緊張しましたが、6人グループという人数設定がちょうど良くて、全員の方とじっくり話ができ、楽しく参加できました。初日にこのような講座があるのは、いいなと感じました。さっそく今日から、気持ちを新しく子どもと接していこうと思います。』

『いろいろな意見を聞いて、とても参考になった。同じママ同士で、悩みなども共有できて、ストレス発散にもなった。優しさを忘れず、生活していきたいなと思った。』

『他の人（親）の意見が聞いて良かったです。自分と違う子育てのやり方など、参考に出ることがいっぱいありました。初めて会う人とのお話、楽しかったです。先生の話聞く講演会と思っていたので、また、違って良かったです。次回も参加して、これからの子育ての参考にしたいと思います。』

『子をもつ同じ母親の考えや気持ちを話すことができ、とても心に残るプログラムでした。みんな悩みを持ちながら子育てをしていく中で、気付いたことを話し合うことができ、参考になることもたくさんありました。』

(イ) 共起ネットワーク

文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ共起ネットワークを図示した。出現数が多い単語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画される。

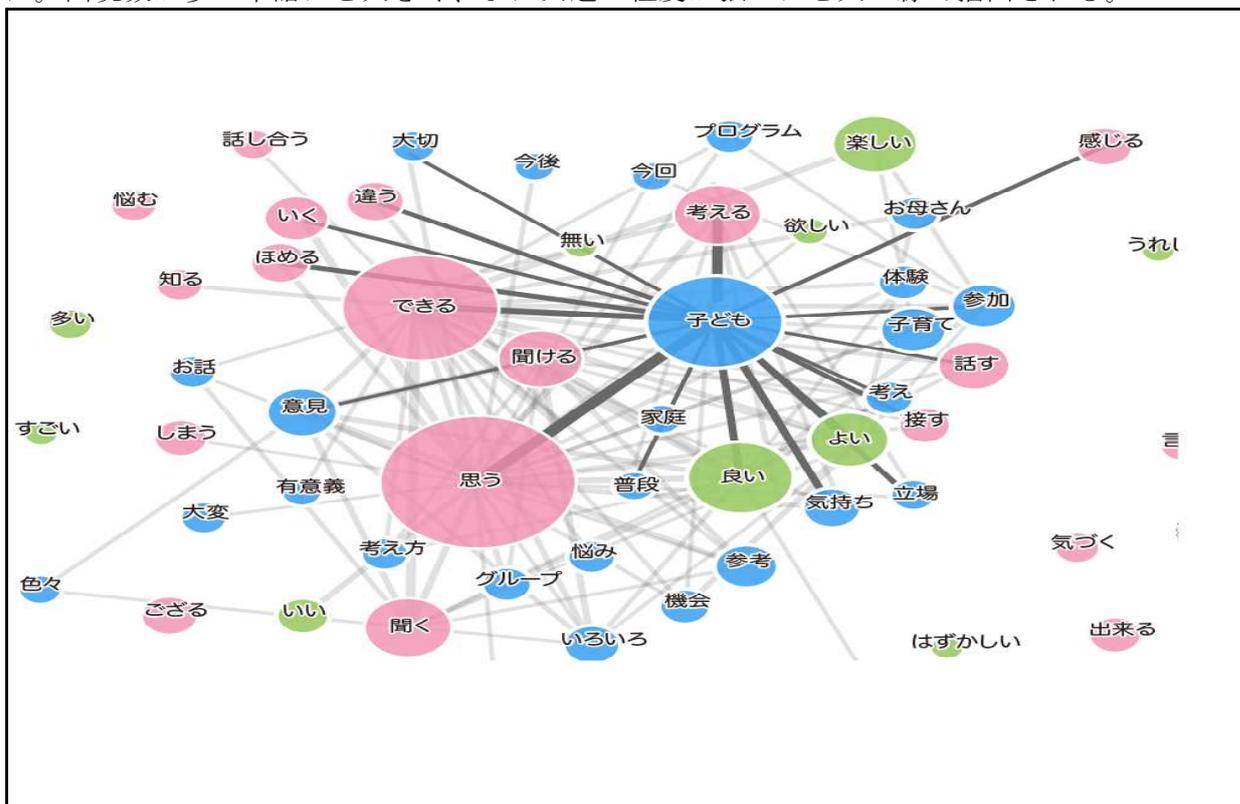


図2 自由記述アンケートからの共起ネットワーク

図2から読み取れることは、主に3点である。

まず、「子ども」に共起する単語として「思う」「考える」などが太く描写されており、自分の子育てを振り返ることができたことが推察される。

次に、子供を共感的に理解することが大切であることが「気持ち」「立場」「違う」なども太く描写されていることからうかがえる。

最後に「聞ける」に共起する単語として「良い（よい）」「参考」「いろいろ」などが太く描写されていることから、他の人の話を聞くことができよかったですということが分かる。

これらを融合すると、自分の子育てを振り返ったり、他の人の話を聞いたりすることができてよかったですという参加者の気持ちが読み取れる。該当する記述の一部を下記に示す。

『子どものことの悩みをグループのお母さん方に聞いてもらえて、少しホッとしました。悩みや考えは皆それぞれ違うんだなと改めて思いました。また、聞いてもらうだけで、小さなヒントもありました。私の心配しすぎな性格を認識しました。どんな時も子どもを自分勝手に否定せず、話を聞いてあげたいです。』

『自分の気持ちだけでなく、子どもの気持ちになって考えることで、いろいろな対処の仕方を考えたりすることができました。なるべく子どもがやりたくなるような働きかけが大事だと思いました。』

『たくさん話を聞いて、とても参考になりました。他の方の子育ての生の声が聞いて良かったです。』

イ 頻出キーワード分析

20個のキーワード（「情緒：安心、勇気・自信、意欲・励み、楽しい」「気付き：気付き、知る、参考、広がり、振り返り、同感、共感、共有、違い、相手の立場」「交流：交流、話せる、聞ける、聞いてもらえる、有意義・よさ、機会」）を含む文例を表1に示し、キーワード出現数を図3に示す。

	キーワード	文例
情緒	安心	どこの家も同じような悩みがあり、安心しました。
	勇気・自信	自分の子育ては、まちがっていないと自信になりました。
	意欲・励み	これから役に立っていかうと思いました。
	楽しい	最後まで楽しい時間を過ごせました。
気付き	気付き	気付かなかったことに気付きました。
	知る	大切だと思いました。～が大切である。認識できました。
	参考	他の家庭のやり方を見えたので、参考になりました。
	広がり	視野が広がった感じがしました。
	振り返り	色々参考になったり、振り返ったりして
	同感	他の家庭にも家と同じような事（勉強や成績のこと）がおきているんだなと感じました。
	共感	同年代の同じ悩みを抱えている方の話は共感ができます。
	共有	親の本音や気持ちを共有
	違い	同じ立場の親であっても、感じ方、言い方、皆違って
	相手の立場	立場がちがって見えてよかったと思う。
交流	交流	交流ができてよかったです。
	話せる	他学年のお母さんと話すことが出来て
	聞ける	他の参加者のお話も聞けて
	聞いてもらえる	悩みの話をグループのお母さん方に聞いてもらえて
	有意義・よさ	良かったです。参加して良かったです。有意義な時間を過ごすことができました。
	機会	同じ子育てをしている人の意見を聞ける貴重な場

表1 キーワード一覧及び文例表

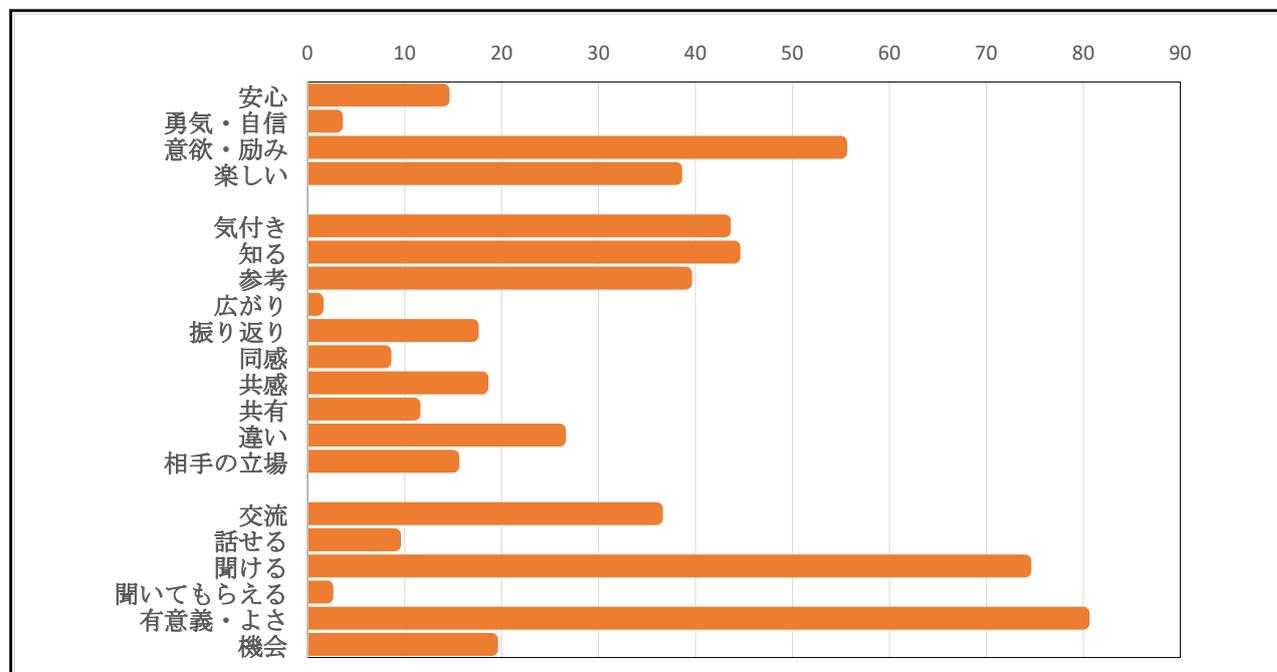


図3 キーワード出現数

図3から読み取れることは、主に3点である。

まず、「有意義・よさ」「楽しい」が多くなっていることから、「ワクワク子育てトークン」に参加してよかったということが分かる。

次に、「話せる」より「聞ける（聞いてもらえる）」が多いことから、同じ子育てをしている人の話が聞くことができたことに参加したよさを感じていることがうかがえる。

最後に「意欲・励み」が多くなっていることから、「ワクワク子育てトーク」に参加したことで子育てに対する意欲を高めることができたことが分かる。さらに、「気付き」「知る」「参考」が多くなっていることから、子供に対する関心の幅が広がったことが分かる。その上「違い」「相手の立場」も出現していることから、過去・あるべき姿・これまでの視点等と比較して、違いや新しさを認識したことが推測できる。

6 家庭教育支援のための「ワクワク子育てトーク」の効果的な活用に向けての提言

アンケート調査の目的の1つは、プログラムに参加したことで「親としての心構えや子供への接し方等についての新たな気付きや家庭教育の大切さを再認識することができること」を明らかにすることであった。アンケート調査の結果分析から、このプログラムはねらいを十分達成できるプログラムであると考えられる。また、アンケート調査の結果分析をふまえて以下の3点を提言する。

- ・家庭教育の学習会として、参加体験型のプログラムは学習者中心という点から効果的なものと考えられるため、工夫した取組を検討し、今後も実践していく。
- ・ファシリテーター（進行役）のもつ、雰囲気づくりの技術や思いを引き出す技術などを高めることで、学習者の家庭教育についての不安解消につながられる。
- ・「ワクワク子育てトーク」を継続的に行うことで、プログラムのねらいである参加者同士のつながりを深めることができる。

7 効果的な取組例

プログラムを実施する際は、「ねらい」「参加人数」「実施可能時間」「使用場所」などそれぞれ条件が異なる。誰を対象に、何をねらいとして実施するかを検討してから、プログラムを実践することが大切になる。

(1) プログラムを連続で実施

連続講座で実施する場合は、開催回数に合わせて実施するプログラム内容やプログラムの系統性を考慮していくことでより有意義な講座となる。公民館等においては、年間事業計画の中に位置付けて定期的実践することにより、参加者同士をつなげる効果が増す。保育園、幼稚園、小・中学校等においては、毎学期の学級懇談会の機会を捉えて実施することもできる。

回	内 容
第1回目	幼児期（接し方）子供の自我の芽生え 「〇〇ちゃんがする！」 ※客観的に子育てについての考え方を語り合えるプログラムを実施する。
第2回目	幼児期（生活習慣）早寝早起き 「早寝早起きできています」 ※自分の子育て観について語り合えるプログラムを実施する。
第3回目	子育て全般（接し方）忙しいお母さん 「聞いて！聞いて！！」 ※子育ての悩みやイライラについて本音で語り合えるプログラムを実施する。

(2) 連続講座の1コマで実施

連続講座の第1回目にプログラムを行い、初対面の参加者同士をつなげ、学んだことを子育てに生かそうとする意識や意欲を高めることができる。

回	内 容
第1回目	ワクワク子育てトーク
第2回目	生きる力を育む 子供の話の聞き方講座
第3回目	親子でリズム遊び
第4回目	足もとから健康に～プロが教える子供の足と健康
第5回目	季節を取り入れ家を楽しく～もみの木の豆本作り～
第6回目	子供のけがと病気～実践編～

8 「ワクワク子育てトーク」新規プログラム及び120分プログラム

(1) 経緯について

「ワクワク子育てトーク」は、公民館等での子育て講座、学校の就学時健康診断、懇談会、子育てサロン・サークルなど、様々な保護者の集まる機会を利用して、会場、参加人数等に合わせ

プログラムをアレンジすることで保護者に学習機会を提供することができる。また、中学校や高校の家庭科の授業等で将来親になる生徒向けのプログラムを実施することができる。

今年度、群馬県生涯学習センターが「出前なんでも講座」で依頼を受けた団体（学校）の中に、対象が「中学生及び保護者」という要望があった。そこで、その要望に対応できるプログラムを作成した。また、多くの中学校で家庭科の授業の中で保育体験学習を実施していることから、幼児への理解や関わり方を学ぶための有効な手段の一つとして「ワクワク子育てトーク」が活用できるのではないかと考え、新規プログラムを作成した。

さらに、今年度、依頼を受けた団体の中で特に多かった要望時間は120分である。プログラムの実施時間は、50分を想定しているが、内容をアレンジすることによって、20分から90分までは調整することができる。今回、120分の要望にも対応できるようなプログラムも作成した。

(2) 各プログラムのねらい及び内容について

ア 新規プログラム（「中学生及び保護者」向け 50分）

ねらい：思春期の子供と親の会話の場面で、親子のコミュニケーションを深めるためにどうしたらよいかを、役割演技や話し合いを通して、「親に自分の気持ちを伝える方法」「親の言うことにも耳を貸すような言葉掛けの方法」に気付いたり、情報交換したりすることができる。

内容

I 親子のコミュニケーションについて（5分）

II ねらいの確認（3分）

III アイスブレイク（5分）

IV ワーク①（12分）

エピソードを基に役割演技（ロールプレイ）を行い、「親の気持ち」「子供の気持ち」を振り返る。

- 1 エピソードを読み、場面を確認する。
- 2 登場人物になりきって役割演技をする。
- 3 役割演技をして、感じたこと、気付いたことをメモする。
- 4 メモしたことをグループ内で順番に発表する。

V ワーク②（15分）

セリフを変えたエピソードを基に役割演技（ロールプレイ）を行い、「親の気持ち」「子供の気持ち」を振り返る。

- 1 内容は変えないで、別の言い方を考える。
- 2 登場人物になりきって役割演技をする。
- 3 はじめの会話と比べてみて、感じたこと、気付いたことをメモする。
- 4 メモしたことをグループ内で順番に発表する。

VI まとめ（10分）

親と子供のそれぞれの立場から、感じたこと、気付いたことを発表する。

【展開例】親子のコミュニケーション～わかってほしい中学生の気持ち～

（資料1）

<ねらい>

思春期の子供と親の会話の場面で、親子のコミュニケーションを深めるためにどうしたらよいかを、役割演技や話し合いをとおして、「親に自分の気持ちを伝える方法」「親の言うことにも耳を貸すような言葉掛けの方法」に気付いたり、情報交換したりすることができる。

<準備するもの>

- ・ワークシート

時間	進め方（発問等）	留意点
3分	<ねらいの確認> これから、進行役として進める学習プログラムは、「ワクワク子育てトーク」と言います。これは、参加者同士が身近なエピソードを通して話し合い、主体的に	<ul style="list-style-type: none"> ・初めに今回のテーマを示し、参加者にプログラムの目的を意識させる。 ・ファシリテーターは先生ではないので、自己開示をしながら一緒に考えるという

	<p>学ぶ、参加体験型の学習プログラムです。ここからは、皆さんが主役です。役割演技をしたり、意見交換をしたりすることを中心に学習をしていきます。今日のプログラムのテーマは「親子のコミュニケーション」です。皆さんと一緒にこのテーマについて考えたり話をしたりしてきましたと思っています。</p>	<p>スタンスをとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3つの約束（参加、尊重、守秘）の説明をする。
5分	<p>＜アイスブレイク＞ 例</p> <p>①【2人組で】魂で握手 （「1～3まで」の好きな数を思い浮かべて、思い浮かべただけ同時に、握手をします。）</p> <p>②【グループで】キャッチ （みんなで円になり、両手を軽く横に出す。左手は輪を作るように軽く握ります。右手は人差し指を立て、隣の人左手の輪の中に入れます。進行役が「キャ・キャ・キャ・キャ・・・キャッチ」と言ったら、右手の人差し指を輪から引き出します。同時に左手は相手の人差し指を逃がさないようにつかみます。</p>	<p>（アイスブレイクは、その場に合わせて選択）</p> <ul style="list-style-type: none"> 数が同じだったときは、「イエーイ」とハイタッチを行い、数が違うときは「ありがとう」という。できれば全員が1回は数が同じになるまで行う。 強くつかむとけがをする場合があることを伝える。また、慣れてきたら左右逆にして行う。
12分	<p>＜ワーク①＞</p> <p>◇エピソードを読み、場面を確認する。</p> <p>◇2人組になり、「Aくん役」と「お母さん役」に分かれて、会話を（役割演技）をしてみましょう。</p> <p>◇会話をして、感じたこと、気付いたことをメモしましょう。</p> <p>◇メモしたことをグループ内で順番に発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物は中学生のAくん、Bくん、Aくんのお母さん。 塾で自習をして遅くなり、帰りに肉まんを買って食べて家に帰る。 お母さんは、連絡もなく遅くなって帰ったAくんをしかる。 それぞれの役になりきって会話をするように伝える。 会話が終わったらその場に座る。 発表する順番は、司会者に一番近い人から時計回りで行う。 他のメンバーの考えを聞くことにより、自分の考えを広げたり、新たな気付きを生んだりすることにつながるとよい。 グループの交流を通して、言葉掛けをする際に大切なことに気付きを共有できればよい。
15分	<p>＜ワーク②＞</p> <p>◇2人組になり、お母さんがAくんに伝えたい内容、Aくんがお母さんに伝えたい内容は変えないで、セリフを変えてみましょう。</p> <p>◇2人組になり、「Aくん役」と「お母さん役」に分かれて、新しいセリフで会話を（役割演技）をしてみましょう。</p> <p>◇会話をして、感じたこと、気付いたこ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワーク①で感じたこと、気付いたことを基にセリフを考えるように伝える。 その場に立ってから始める。 それぞれの役になりきって会話をするように伝える。 セリフが変わっているので、返答はアド

	とをメモしましょう。 ◇メモしたことをグループ内で順番に発表しましょう。	リブで対応する。 • 会話が終わったらその場に座る。 • 発表する順番は、司会者に一番遠い人から時計回りで行う。 • 他のメンバーの考えを聞くことにより、自分の考えを広げたり、新たな気づきを生んだりすることにつながるとよい。
10分	◇くまとめ> • 親子のコミュニケーションで大切なことは何か、今日の活動から振り返ってみよう。	• 親と子供のそれぞれの立場から、感じたこと、気付いたことを発表する。

【ワークシート】

(資料2)

中学生のAくんは、同級生のBくんと同じ学習塾に通っています。二人は仲がよくいつも一緒に帰ります。今日は、定期テスト前なので、二人は塾で自習をしていて遅くなりました。お腹が減ったので、帰り道にBさんとコンビニエンスストアで肉まんを買って食べ帰宅したのは、午後9時をかなり過ぎていました。

母「ちょっと何時だと思ってるの！こんな遅くまで、何してたの。心配するでしょ！」

A「テスト前だから、残って自習してたんだよ。」

母「遅くなる時は連絡するという約束でしょ。」

A「だから、スマホ買ってよ。みんな持ってるし。」

母「ダメよ！スマホは高校が決まってからの約束でしょ。それより、早くご飯食べなさい。」

A「さっき肉まん食べたから、ごはんの量を減らしてよ。」

母「何買い食いしてるの！お母さんが、ちゃんにご飯用意して待ってるの知ってるでしょ？せっかく一生懸命、作ったのに！」

A「Bと一緒になんだから仕方ないだろ、つきあい、つきあい。」

母「食事は大事よ。栄養のバランスもあるし、お小遣いだって大切に使わなきゃ。ちゃんと、全部食べなさいよ。」

A「分かってるよ。いちいちうるさいなあ。」

母「分かっていたら、そういうことしないはずでしょ！いつも、分かった、分かったばかり言って！ところで、この前のテストの結果は返ってきたんでしょ、ちゃんと見せなさいよ。」

A「ハイ ハイ」

母「何、その返事！さっさと食べて、早く宿題やりなさい。」

A「ハイ ハイ わかりました！」

☆この親子の会話を、役割を決めて演技してみましょう。

<役割>	Aくん	()
	母	()

①演技をやってみて、感じたこと、思ったことはありますか。

メモ

②自分の役で、言い方を変えてみたいところはありませんか。お母さん、Aくんのそれぞれの言いたい内容は変えないで、言い方だけ書き直してみましょう。何カ所でも、変えてみて構いません。

③もう一度会話をしてみましょう。言い方が変わったところは、会話がうまく進むように、思いつきで受け答えをして、つづけてみてください。

④どうでしたか。はじめの会話の時と、違いがありましたか。

メモ

イ 新規プログラム（中学校家庭科「保育体験学習用」 50分）

ねらい：ある場面の子供への言葉掛けを考えたり、グループで話し合ったりすることを通して、子供の日常生活に適し、子供が自分から動く気持ちになれる言葉掛けや態度について、気付くことができる。

内容

I ねらいの確認（3分）

II アイスブレイク（5分）

III ワーク①（20分）

エピソードを基に役割演技（ロールプレイ）を行い、「自分の気持ち」「子供の気持ち」を振り返る。

- 1 エピソードを読み、場面を確認する。
- 2 登場人物になりきって役割演技をする。
- 3 役割演技をして、感じたこと、気付いたことをメモする。
- 4 メモしたことをグループ内で順番に発表する。
- 5 グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考える。

IV ワーク②（20分）

エピソード（4つのエピソードから1つグループで決める）を基に役割演技（ロールプレイ）を行い、「自分の気持ち」「子供の気持ち」を振り返る。

- 1 エピソードを読み、場面を確認する。
- 2 登場人物になりきって役割演技をする。
- 3 役割演技をして、感じたこと、気付いたことをメモする。
- 4 メモしたことをグループ内で順番に発表する。
- 5 グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考える。

V まとめ（2分）

幼児期の子供に接するときに必要なことは何か、振り返る。

【展開例】親になる（接し方）子供との関わり 「幼児期の子供との関わり」（資料3）

<ねらい>

ある場面の子供への言葉掛けを考えたり、グループで話し合ったりすることを通して、子供の日常生活に適し、子供が自分から動く気持ちになれる言葉掛けや態度について、気付くことがで

きる。

<準備するもの>

- ワークシート

時間	進め方（発問等）	留意点
3分	<p><ねらいの確認></p> <p>これから、ワクワク子育てトークを始めます。今日のテーマは「子供との関わり」です。保育実習に出かけたときに出会いそうな場面を考えて、子供とどのように関わったらよいか、皆さんと一緒に考えたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 初めに今回のテーマを示し、参加者にプログラムの目的を意識させる。• ファシリテーターは先生ではないので、自己開示をしながら一緒に考えるというスタンスをとる。• 3つの約束（参加、尊重、守秘）の説明をする。
5分	<p><アイスブレイク> 例</p> <p>①【グループで】チェーン自己紹介 （自分の名前と今日の昼食のメニューを簡単に言う。次の人は、お昼に〇〇を食べた△△さんの隣の□□、というように付け足して自分を紹介します。）</p> <p>②【2人組で】魂で握手 （「1～3まで」の好きな数を思い浮かべて、思い浮かべただけ同時に、握手をします。）</p>	<p>（アイスブレイクは、その場に合わせて選択）</p> <ul style="list-style-type: none">• 「自分で作ってきたおにぎりを食べた〇〇です。」というような定型を示す。• 数が同じだったときは、「イエーイ」とハイタッチを行い、数が違うときは「ありがとう」という。できれば全員が1回は数が同じになるまで行う。
20分	<p><ワーク①></p> <p>◇Aのような場面に、あなたが出会ったらどのような言葉掛けをするか、考えたことをワークシートに書きましょう。</p> <p>◇2人組になり、「子供役」と「あなた」に分かれて、会話の続き（役割演技）をしてみましょう。</p> <p>◇会話をして、感じたこと、気付いたことをメモしましょう。</p> <p>◇メモしたことをグループ内で順番に発表しましょう。</p> <p>◇グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 模範解答を考えるのではなく、自分が実際に言葉をかけるときのことを考えるように伝える。 <p>（例）</p> <ol style="list-style-type: none">①おしちゃだめでしょ。あやまりなさい。②ちょっと、何やってるの！③あらあら、ないちゃったよ。どうするの。④あそびたかったのね。順番よ。 <ul style="list-style-type: none">• 「あなた」は自分で考えた言葉掛けをし、「子供役」はアドリブで対応する。• 1分30秒間で役割を交代する。• 他のメンバーの考えを聞くことにより、自分の考えを広げたり、新たな気づきを生んだりすることにつながるよ。• グループの交流を通して、子供への言葉掛けをする際に大切なことに気づきを共有できればよい。 <p>（例）</p> <ol style="list-style-type: none">①子供同士が納得できるような言葉掛けと関わり方をする。②ルールを決めて、順番を守らせることで納得させる。 <ul style="list-style-type: none">• 様々な意見を聞き、共感し、また視野を広げられるようにする。
20分	<p><ワーク②></p> <p>◇B～Eの中から別の場面を選ぶ。</p> <p>◇あなたがその場面に出会ったら、どの</p>	<ul style="list-style-type: none">• 模範解答を考えるのではなく、自分が実際に言葉をかけるときのことを考えるよ

2分	<p>ような言葉掛けをするか、考えたことをワークシートに書きましょう。</p>	<p>うに伝える。</p>
	<p>◇2人組になり、「子供役」と「あなた」に分かれて、会話の続き（役割演技）をしてみましょう。</p> <p>◇会話をして、感じたこと、気付いたことをメモしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •「あなた」は自分で考えた言葉掛けをし、「子供役」はアドリブで対応する。 •1分30秒間で役割を交代する。
	<p>◇メモしたことをグループ内で順番に発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •他のメンバーの考えを聞くことにより、自分の考えを広げたり、新たな気付きを生んだりすることにつながるとよい。
	<p>◇グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考える。</p> <p>◇<まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> •幼児期の子供に接するとき大切なことは何か、今日の活動から振り返ってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> •グループの交流を通して、子供への言葉掛けをする際に大切なことに気付きを共有できればよい。 •子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けが大切等、子供に接するとき大切なことに気付く。 <p>(例)</p> <p>幼児と同じ目の高さにする。</p> <p>幼児の立場になって話を聞く。</p> <p>笑顔で話す。</p> <p>やさしく分かりやすく話す。</p>

A【ワークシート】（接し方）子供との関わり

(資料4)

☆アイスブレイク

Aくんは、遊び場にある、お料理のまねごとができるキッチンで遊ぶことが大好きでした。しかし、今日はBちゃんが、そのキッチンでお料理を作り遊んでいました。それを見ていたAくんは、いつものようにお料理が作りたくて仕方ありません。Aくんは「代わって!」と言いましたが、Bちゃんは「わたしが使っているの。」と言って代わってくれません。とうとうAくんは、「代わってよ」と言ってBちゃんを押してしまいました。押されたBちゃんは、泣いてしまいました。

○上の場面をあなたが見かけたら、子供にどのような言葉をかけますか。考えてみましょう。

○二人組になって、「子供役」と「あなた」に分かれて、会話（役割演技）をしてみましょう。「あなた」は、自分が考えた言葉を基に、「子供役」はその子になりきって話をしてください。時間になったら、役割を交代します。それまでは、頑張って話をつづけてみてください。

○会話をしてみて、感じたこと、気付いたことはありますか。

○グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考えましょう。

B【ワークシート】（接し方）子供との関わり

☆アイスブレイク

Cくんは、ゲームやおもちゃを出しっぱなしで片付けがなかなかできません。周りにいる大人が、ついつい片付けをしてしまいます。今日も、ブロックや輪投げボールなど、自分で遊んでいたものを出しっぱなしのまま、外に遊びに行こうとしています。

○上の場面をあなたが見かけたら、子供にどのような言葉をかけますか。考えてみましょう。

○二人組になって、「子供役」と「あなた」に分かれて、会話（役割演技）をしてみましょう。「あなた」は、自分が考えた言葉を基に、「子供役」はその子になりきって話をしてください。時間になったら、役割を交代します。それまでは、頑張って話をつづけてみてください。

○会話をしてみて、感じたこと、気付いたことはありますか。

○グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考えましょう。

C【ワークシート】（接し方）子供との関わり

☆アイスブレイク

Dちゃんはおとなしくて、自分から遊ぼうと言えません。幼稚園でも、ひとりぼっちで遊んでいます。Dちゃんに聞くと、友達と遊びたい気持ちはあるものの、それをどう表してよいか分からないといいます。今日も、Dちゃんは、友達が楽しそうに遊んでいるのをだまって見えています。

○上の場面をあなたが見かけたら、子供にどのような言葉をかけますか。考えてみましょう。

○二人組になって、「子供役」と「あなた」に分かれて、会話（役割演技）をしてみましょう。「あなた」は、自分が考えた言葉を基に、「子供役」はその子になりきって話をしてください。

時間になったら、役割を交代します。それまでは、頑張って話をつづけてみてください。

○会話をしてみて、感じたこと、気付いたことはありますか。

○グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考えましょう。

D【ワークシート】(接し方) 子供との関わり

☆アイスブレイク

Eくんは、なにかというと大声をあげ、自分の思い通りにならないと、ひっくり返ってかんしゃくをおこしたり、憎まれ口をききます。

今日は、幼稚園のお友達にちょっとさわられただけなのに大声をあげ「OOちゃんがたたいた」と怒っています。

○上の場面をあなたが見かけたら、子供にどのような言葉をかけますか。考えてみましょう。

○二人組になって、「子供役」と「あなた」に分かれて、会話(役割演技)をしてみましょう。「あなた」は、自分が考えた言葉を基に、「子供役」はその子になりきって話をしてください。時間になったら、役割を交代します。それまでは、頑張って話をつづけてみてください。

○会話をしてみて、感じたこと、気付いたことはありますか。

○グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考えましょう。

E【ワークシート】(接し方) 子供との関わり

☆アイスブレイク

Fちゃんは、気まぐれで、すぐ物をなげたりこわしたりします。
今日も、自分が遊んでいるおもちゃに飽きて、放りなげてしまいました。

○上の場面をあなたが見かけたら、子供にどのような言葉をかけますか。考えてみましょう。

○二人組になって、「子供役」と「あなた」に分かれて、会話（役割演技）をしてみましょう。
「あなた」は、自分が考えた言葉を基に、「子供役」はその子になりきって話をしてください。
時間になったら、役割を交代します。それまでは、頑張って話をつづけてみてください。

○会話をしてみて、感じたこと、気付いたことはありますか。

○グループ全員で意見をまとめ、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けを考えましょう。

【ワークシート】 まとめ

○グループ全員で意見をまとめたとき、子供が自分から動く気持ちになる言葉掛けで、これは役に立ちそうだ、今度使ってみようと思ったものはありますか。

○保育実習で小さい子と関わる時、または、これから小さい子と関わっていくときに、こんな場面にであったら、自分ならどうしたいと思いましたか。自分の考えを書きましょう。

こんな場面で
このようにしてみたい

ウ 120分用プログラム（説明とプログラム 120分）

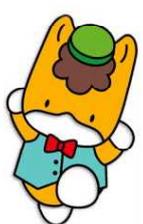
ねらい：ワクワク子育てトークンが作成された経緯及びプログラムのおおまかな流れについて理解する。

内容

- I 家庭教育を取り巻く現状（15分）
- II ワクわく子育てトークン作成の経緯（10分）
- III ワクわく子育てトークンの流れ（5分）
- IV ワクわく子育てトークン（90分）

【プレゼン】ワクワク子育てトークン作成の経緯及びプログラムの流れ

（資料5）

<p>「ワクワク子育てトークン」とは？</p>  <p>群馬県生涯学習センター 家庭教育担当</p>	<p>家庭教育とは</p>  <p>・父母その他の保護者が子どもに対して行う教育</p> <p>家庭教育支援とは</p> <p>・家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供などの必要な施策を講じること</p>
<p>家庭を取り巻く今の環境</p>  <p>高度情報化 コミュニケーションの変化 少子化 核家族化 地域社会のつながりの希薄化 保護者の孤立化</p> <p>ストレス社会 教育格差 子育て環境の悪化</p>	<p>親同士のネットワークを作る機会の減少</p>  <p>高校【青年中期】 中学校【青年前期】 小学校【学童期】 保育園・幼稚園【幼児】 子育て教室【乳児】</p> <p>保護者の孤立化</p>
<p>親の心配ごと.....</p> 	<p>親の心配ごと.....</p>  <p>しつけ 健康 生活リズム 勉強 友達関係 登校しぶり いじめ 携帯・スマホ 異性関係 思春期の扱い方 進路 将来のこと 仕事 人間関係 親の介護</p> <p>「だれに相談すればいいの？」</p>
<p>ぐんまの家庭教育応援条例 平成28年4月1日施行</p> <p>各家庭が主体的に家庭教育に取り組むための環境整備に努めるとともに、家庭教育を社会全体で応援し、地域の宝である子どもたちが、将来に希望を持ち健やかに成長することをともに喜びあえる群馬県を目指す。（前文より）</p> 	<p>保護者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、子どもに愛情をもって接するとともに、幼少期において親子間での安定した愛着の形成が図られるよう努めるものとする。（第6条） ・保護者は、一人一人の子どもの個性を尊重し、子どもの健全な成長のために必要な生活習慣の確立、自立心の育成及び心身の調和のとれた発達を図るとともに、自らも成長していくよう努めるものとする。（第6条の2） 
<p>親としての学び</p>  <p>・親としての学び（保護者が、子どもの発達段階に応じて大切にしたい家庭教育の内容、子育ての知識その他の親として成長するために必要なことを学ぶことをいう。）を支援するために、その学びの方法の情報収集、研究及び普及を図るものとする。（第11条）</p>	<p>親になるための学び</p>  <p>・親になるための学び（子どもが、家庭の役割、子育ての喜びや大切さその他の将来親になるために必要なことを学ぶことをいう。）を支援するため、その学びの方法の情報収集、研究及び普及を図るものとする。（第12条）</p>

子育て四訓

1. **乳児**は**しっかり肌**を離すな
2. **幼児**は**肌**を離せ、**手**を離すな
3. **少年**は**手**を離せ、**目**を離すな
4. **青年**は**目**を離せ、**心**を離すな

11

ワクワク子育てトークとは

- ・参加者同士が身近なエピソードやワークを通して話し合い、自ら進んで学ぶ



「参加体験型プログラム」

12

「ファシリテーター」司会進行役 <プログラムの流れ>

はじめ	・学習のねらいの確認 ・3つの約束(参加、尊重、守秘) ・アイスブレイク
なか	・エピソードをもとに ロールプレイング(役割演技) ⇒それぞれの心情を実感 ・話し合い ⇒知恵を出し合う。 ⇒気づきを持てる。
終わり	・ふりかえり(わたしのプチ改革)



13



後半は、実際に、「ワクワク子育てトーク」を実践してみましょ
う！！

14